

25か国の代表の参加をもって行なわれた。

第17回人口委員会の議長には、フィリピンの Mercedes B. Concepcion が、副議長にはルーマニアの Mrs. V. Russ, ガーナの K. T. de Graft-Johnson, およびコスタリカの V. H. Morgan が、ラポターにはオランダの D. J. van de Kaa がそれぞれ選出され、これら役員の下に議事は進行した。

会議の内容は、本誌「資料」欄に詳細が掲載されているので、ここには議題を次掲するにとどめる。

1. Election of officers
2. Adoption of the agenda
3. World Population Conference, 1974
4. World Population Year, 1974
5. African Census Programme
6. Proposals regarding demographic publications of the United Nations and financial implications
7. Report on the progress of work
8. Two-year and medium-term programmes of work for 1974-1975, 1974-1977 and 1976-1979
9. Dates and places of the next sessions
10. Adoption of the report of the Commission

(山口喜一記)

## アジア社会学会議

昭和48年10月16日から4日間、日本社会学会は、日本ユネスコ国内委員会との共催で、アジア地域の社会学会を赤坂プリンスホテルで開いた。正式会議名は「アジア地域における社会学と社会開発に関するシンポジウム」であり、討論課題は「人口変動と社会開発」「経済開発と社会開発——その不均衡と調整」「社会開発に対する社会学者の役割」の3つであった。参加国は、香港、インド、インドネシア、イラン、日本、韓国、マレーシア、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、らのアジアの主役に、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アメリカ合衆国の諸国からのオブザーバーが加わった。

アジア地域の国といっても、それぞれの国の発展段階は違っているから、社会開発についての考え方も、現実的な目標や課題は異なる。わが国は経済開発偏重で高度成長をとげた結果、社会開発の遅れがめだつ。そのわが国において経済開発一途の発展が何をもたらすかを、外国の社会学者にみてもらおうと、会議の延長として、岡山県水島地域のコンビナートの見学が、会議主催者によって企画され、外国学者の参考と反省を深める機会となったことは、討論以上の会議の成果であった。その他、社会開発という問題をめぐって社会学者に何ができるかという社会学者の課題をめぐって「アジアにおける社会学者の地域的協力」が議論された。またこれを機縁としてアジアの社会学者の交流を促進し、日本の経済進出が経済侵略的な現状から転換し、進出先の諸国民の福祉にもつながる道を探ろうとすることも、会議の主題であった。日本社会学会が国際会議を主催した第一歩であり、今後アジアにおける学問や文化の面で経済進出の罪ほろぼしをしていくようにという願いが内にあった。

(若林敬子記)